

札幌市スポーツ推進計画掲載事業の令和2年度（2020年度）実施状況

自己評価基準	◎：当初の予定通り事業を実施できたもの ○：概ね予定通り事業を実施できたもの ▲：予定通り事業を実施できず今後に向けて検討を要するもの又は、当該年度時点で事業化に至っていないもの ー：外的要因により未実施のもの又は、規模を大幅に縮小したもの
--------	---

目標1 スポーツの力で「市民」がかがやく

方針1 ライフステージや体力に応じたスポーツ活動の推進

施策1 子ども、高齢者、子育て世代、ビジネスパーソンのスポーツ参加を目指します

(1) 子どもがスポーツに参加する機会の提供

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
子どものスポーツ参加のきっかけづくり	ウインタースポーツ塾（さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業）	子どもたちを対象にウインタースポーツを体験できる機会を提供 実施種目：クロスカントリースキー、ジャンプ、リュージュ、スノーボード、カーリング、フィギュアスケート	新型コロナウイルスの影響により体験会は中止。新たに、簡易スケート検定を気軽に受けられる「さっぽろっ子スケートチャレンジ検定」を実施。2020年12月～2021年3月にかけて37回開催し、延べ624人が参加した。	◎
	カーリング普及促進事業（さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業）	カーリングに親しむきっかけづくりのほか、競技力向上を目指し継続的に取り組む環境の提供	子ども向け指導プログラム参加者数729名(158回) 競技力向上のため行ったレベル別カーリングスクールには4,266名(957回)の参加があった。	
	さっぽろっ子ウインタースポーツ料金助成（ウインタースポーツ普及振興事業）	ウインタースポーツに生涯にわたって親しめるよう、子どもたちに対してリフト料金・スケート貸靴料金の助成を行い、スキー、スケートに親しむ機会を創出	料金補助券を配付（スケート貸靴料金、スキーリフト料金） 使用者数延べ27,348人。	
	運動部活動アスリート派遣事業（アスリート活用事業）	中学校の運動部活動にアスリートを派遣して部員の競技力向上、指導者の指導力向上を推進	24運動部活動に派遣 派遣回数延べ332回	
	オリンピックズキャラバン事業（アスリート活用事業）	地域で行われるスポーツ体験会等へオリンピック等を派遣して地域のスポーツ活動の振興、地域の活性化を図る	1イベントにオリンピック等を派遣。イベント参加者延べ100人。	
	部活動における外部人材の活用事業	各中学校における部活動の振興のため、部の運営を単独で行うことができる「部活動指導員」や、顧問教諭が不在でも単独で技術指導ができる「特別外部指導者」を派遣する	2020年度部活動数は1,210となり、ほぼ横ばい。部活動数維持のため、部活動指導員を45名に大幅増員して派遣したほか、特別外部指導者を26名派遣した。	
地域スポーツ指導者の中学校への派遣	地域スポーツ指導者派遣事業（ウインタースポーツ普及振興事業）	ウインタースポーツに生涯にわたって親しめるよう、子どもたちに対してウインタースポーツを始めるきっかけづくりと学習環境の充実を図る	中学校体育授業の補助指導者として、15校に延べ335人派遣。	◎
スポーツ施設を戦略的に活用したスポーツを始めるきっかけづくりの検討	さっぽろジュニアアスリート発掘・育成（さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業）	札幌市スポーツ協会が保有する資源を最大限活用することで、優れた素質を有する子どもたちを早期に見出し、札幌から世界に羽ばたくトップアスリートの育成を図る。	冬季競技の5種目による育成を開始（スノーボード、スキージャンプ、カーリング、フリースタイル、ノルディック複合）。ナショナルチームに4人の育成選手が選出された。夏季競技の3種目の選定を行った（陸上、テニス、バドミントン）。	◎
子どもの体力向上推進事業	子どもの体力・運動能力向上事業	子どもの体力、運動能力の向上を目指し、大学と連携してその方策を検討するとともに、運動機会の少ない子どもを対象にしたスポーツイベントを開催するなど、子どもの運動・スポーツ機会の一層の充実を図る	体力向上等に向けた方策に関する調査研究を実施した。また、運動機会の少ない子どもを対象としたスポーツイベントをコロナの影響によりオンライン開催とした。	○
児童会館 中学生・高校生夜間利用「ふりーたいむ」の実施	児童会館における中・高校生の利用促進事業	児童会館において、開設時間を週2回午後9時までに延長することにより、中・高校生の放課後の居場所の確保を図る	〔実施館数〕 105館(令和2年1月、羊丘児童会館閉館) 〔利用人数〕 34,516人(コロナウイルスの影響による減)	○

(2) ビジネスパーソンや子育て世代に対するスポーツ機運の醸成

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
スポーツに対する意識の改善	大通駅～バスセンター前駅地下コンコース内へのサイン掲出	地下鉄利用者のサービス向上に加えて、市民のスポーツ意識の啓発を図るため、大通駅・バスセンター駅間の距離、歩行による消費カロリー、スポーツ標語を示したものに更新。	・バスセンター前駅地下コンコース内にサイン(スポーツ啓発ポスター)を引き続き掲出した。	○
子育て世代のスポーツ参加に向けた取組	各区体育館におけるスポーツ教室事業等(体育施設運営管理事業)	利用者のニーズに合わせた、親子対象教室や託児付き教室を自主事業として実施	体育館グループにおいては厚別区体育館他2施設にて親子参加型の運動教室を実施。 温水プールグループは東温水プール他2施設にて親子参加型水泳教室を実施。	○
ウォーキング推進キャンペーンの実施	「ウォークさっ歩る」の啓発	ウォーキングを通じて、市民の皆さんがいつでも元気であり続けること、そして札幌が「歩きやすい街」、「歩いて楽しい街」、「歩きたくなる街」として、国内外に広く知られるようになることを目指す	各区で作成しているウォーキングマップを引き続き配架 (2020年度印刷状況約1万部)	◎
	各区におけるウォーキング推進事業(北)	気軽にできるウォーキングにより、区民一人ひとりの健康の実現を目指すとともに、地域を越えた繋がりと運動習慣の定着及び歴史的建造物や文化遺産を巡り北区の歴史を知る機会とする。 1回目 拓北・あいの里コース 約6km 2回目 安春川コース 約6km 3回目 北大構内コース 約3.7km 4回目 百合が原・篠路コース 約7km	雨天中止の回を除き3回で68人の参加があった。	
	ぽっぴいはっぴいプラン～区民・大学とつくる「きたまち」すこやか事業における区民交流「ぽっぴいウォーキング会」			
	各区におけるウォーキング推進事業(厚別)	健康寿命延伸のため、健康に直結する食育と手軽に取り組めるルディックウォーキングを合わせて実施し、全体として健康を目指す意識と実践の必要性を区民に広める	・ルディックウォーキング講座(年2回) ・ルディックウォーキングマップの作成、配布(配布数累計:300冊) ・ルディックウォーキングホール貸出	
	各区におけるウォーキング推進事業(白石)	健康を意識し、運動や食生活改善に向けて自発的に行動する区民を増やすため、ウォーキングマップの作成や各種スポーツ大会への支援により、気軽にウォーキングやスポーツに親しめる環境を整える	参加人数:300人 新たに「白石歴しるべウォーキングマップ」を5,000部制作 ※新型コロナウイルス感染症の影響でほとんどの事業が中止となったため、例年より参加人数が減少した。	
	各区におけるウォーキング推進事業(南)	冬もウォーキングを楽しむ人を増やすため、雪道の安全なウォーキング方法の周知やウォーキングボールの貸与など、ウォーキングを実践している団体へ冬季の参加拡大に向けた支援を実施	・ウォーキング愛好団体と共同で、雪中ウォーキング大会を開催する予定だったが、新型コロナ感染拡大防止のため中止した。 ・ウォーキング愛好団体の定例会や地域で活動するグループのウォーキング活動を、啓発品を配布することにより支援した。 これらの冬期ウォーキング活動への参加者は、延べ1,526人、累計では2,610人となり、2022年の目標値(2,100人)をすでに上回ったため、新たに2022年の目標値を4,000人と設定した。	
	各区におけるウォーキング推進事業(西)	幅広い世代の区民が多様なライフスタイルに合わせ、年間を通してルディックウォーキングを活用した健康づくりに取り組むことができるよう拠点づくり、講習、イベント等を実施	西保健センターのほか農試公園を拠点として追加した。初心者講習を2回開催。イベント等は実施できなかった。 264人の方がルディックウォーキングを実践した。	
スポーツ活動を促進するインセンティブの検討	各区におけるウォーキング推進事業(手稲)	北海道科学大学とウォーキングアプリを構築し、その活用術を発信するとともに、企業等と連携して健康度がアップする取組を展開	・外部講師によるアプリ開発に係る研修会の実施及び研修会聴講生による検証作業を経て、科学大によるウォーキングアプリ体験版を作成 ※アプリ開発にあたっては、技術的に難易度が高いこと、高額な開発費等、期間的にも困難なことから、元年度末までに既存AR型アプリと連動させるWEBサイトの開発へ方針変更。	○
	働く世代への健康増進アプローチ研究事業	健康課題の多い働く世代を対象に、健康行動につながる支援を行い、その結果検証からアプローチ方法を分析し効果的な施策を検討。	企業説明会を実施し、令和2年11月からプレ運用を開始。	

(3) 高齢者がスポーツを楽しむ機会の提供

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
全国健康福祉祭「ねんりんピック」への選手派遣	ねんりんピックへの選手派遣	高齢者を中心とするスポーツ・文化・健康・福祉などの総合的なイベントである「ねんりんピック」に、選手を派遣	新型コロナウイルス感染症の影響から、ねんりんピック岐阜大会が1年延期となったため、派遣していない。	—
老人福祉センターにおける健康増進の場の提供	老人福祉センター運営	地域の高齢者の健康増進を図るため、老人福祉センターにおいて運動や介護予防の機会を提供	健康増進に関する教養講座を10館で計33講座実施した。	○
老人クラブへの活動支援	老人クラブ活動費補助事業	健康づくり活動などの生活を豊かにする活動等を行っている老人クラブや、その活動の育成指導や連絡調整を行う老人クラブ連合会の活動を支援	427のクラブ(計23,796名の会員)や老人クラブ連合会に補助金交付を行った。	○

施策2 スポーツに親しむための場所や機会を充実させます

(1) 安心・安全なスポーツ施設の提供

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
新中央体育館(北ガスアリーナ札幌46)の開館	中央体育館改築事業	中央体育館を建て替え、今後の市民のスポーツ活動を支える中核施設としての機能を確保します。	2019年度供用開始(事業終了)	◎
スポーツ施設の計画的な保全、改修	スポーツ施設リフレッシュ事業	市民が安全・安心・快適にスポーツに親しめる環境を維持していくため、スポーツ施設の計画的な保全、改修、大型備品の更新を行う。	【修繕】 ・スポーツ交流施設人工芝敷設 ・円山陸上競技場スタンドベンチ保全 ・円山球場外構フェンス保全 ・円山球場スタンド防水保全 ・清田区体育館温水プール建築保全 ・スポーツ交流施設建築保全 【備品】 ・平岸プール更衣室ロッカー更新 ・円山陸上競技場エアレーション更新 ・東区体育館トレーニングマシン更新 ・麻生球場乗用リール式芝刈機更新	◎
	札幌ドーム保全事業	計画的に保全改修工事を行い、大規模イベントなどを継続的に開催できる環境を保ちます。	アリーナ照明盤改修工事、冷房設備改修工事、遮光幕設備保全業、電気設備保全業務、中央監視装置保全業務、可動設備保全業務 等を実施。	
	藤野野外スポーツ交流施設リニューアル事業	藤野野外スポーツ交流施設(フッズ)の老朽化が進んでいるリフトを更新	第1ペアリフト劣化度調査業務、第1ペアリフト改修工事実施設計を実施。	
	硬式野球場整備事業	硬式野球場の不足に対応するため、既存の軟式野球場を硬式野球場に改修	2019年度にまとめた基本検討業務を元に、基本的な仕様や具体的な建築形態を創り上げるための基本設計検討業務を行った。	
	市民運動広場整備事業	北区新琴似の市有地について、地盤や地下水への影響を見極めながら、市民運動広場としての活用を図る。	2019年度に試験盛土等を行い、2020年度に詳細な状況の把握や分析などを実施した結果、安全な広場整備に向けて必要な対応の見通しがついた。	
	安全・安心な公園再整備事業	誰もが地域の公園を安心して安全に利用できるよう、老朽化した遊具や管理事務所等の改修を行うほか、出入口や園路の段差解消、バリアフリー対応トイレの設置など、施設のバリアフリー化を実施します。	〔バリアフリー化、老朽化施設更新を実施した公園数〕54公園 ※農試公園、屯田西公園における運動施設の改修 農試公園(野球場2面のうち1面の整備完了)、屯田西公園(陸上競技場の実施設計完了)	
将来を見据えたスポーツ施設の再配置、再整備の検討	スポーツ施設配置・活用計画策定事業	今後の人口減少や超高齢社会、多様化するニーズに対応するため、オリパラ等の競技大会への対応や更新費用の平準化等を考慮した計画を策定	「札幌市スポーツ施設配置活用実施方針(案)」をまとめ、パブリックコメントを行った(方針策定は2021年度)。	○

(2) スポーツを実施する機会の提供・情報発信

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
学校開放の実施	学校開放事業(学校施設等開放事業)	小中学校の体育施設を市民へ開放し、身近なスポーツ活動の場を提供(体育館、グラウンド、格技室)	小中学校の体育施設を市民へ開放し、市民のスポーツ活動の場の提供を継続。 利用率: 84.7%	○
スポーツ施設供用時間の延長の検討	どうぎんカーリングスタジアムの供用時間の延長(体育施設運営管理事業)	競技力の向上と裾野拡大を図るため、ネーミングライツを財源として、開館時間を延長(月～木: 1時間、金・土: 2時間)	240日間実施 2020年4月1日～2021年3月31日(年末年始、日曜日、整備日、水張替休館、コロナウイルス休館除く)	○
新たなパークゴルフ場の整備	公園造成事業	みどりの基本計画に基づき、みどりのネットワークの骨格や街中のみどりの創出となる公園・緑地の整備を行います。	厚別山本公園パークゴルフ場 2019年度供用開始(事業終了)	◎
ワールドカップ開催を契機としたラグビー競技の普及	ラグビー普及振興事業	小学生を対象としたラグビーの普及を行うとともに、トップレベルの試合を観戦する機会を提供	札幌市内小学校のラグビー実施率74%	○
スポーツ関連情報の効果的な提供	公式ホームページ、広報誌のほか、イベント出版などを通じて随時情報提供	各事業においてそれぞれ実施	—	○

さっぽろ市民カレッジの実施	さっぽろ市民カレッジ運営	札幌市生涯学習センターを拠点として「さっぽろ市民カレッジ」を開設し、ダンスやフィットネスなど、老若男女が気軽にスポーツを体験できる講座を提供する	受講者:1,238人 スポーツに関する講座を複数開講し、老若男女が気軽にスポーツ体験できる機会を提供した。 なお、新型コロナウイルス感染症拡大により、当初予定していた講座数・受講者数よりも大幅減での実施となった。	—
(3) 官民連携によるスポーツ環境整備手法の研究				
具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
官民連携によるスポーツ環境整備手法の研究	ウインタースポーツ・オフシーズン練習施設整備費補助金	市民が一年を通じてウインタースポーツに親しめる環境を整備するため、民間事業者による施設整備に対して費用の一部を補助	GRASS:スケボーパーク施設改修	◎
施策3 ウィンタースポーツを振興します				
(1) ウィンタースポーツの裾野拡大に向けた取組				
具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
ウインタースポーツ塾の開催【再掲】	ウインタースポーツ塾(さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業)	子どもたちを対象にウインタースポーツを体験できる機会を提供 実施種目:クロスカントリースキー、ジャンプ、リュージュ、スノーボード、カーリング、フィギュアスケート	新型コロナの影響により体験会は中止。 新たに、簡易スケート検定を気軽に受けられる「さっぽろっ子スケートチャレンジ検定」を実施。2020年12月～2021年3月にかけて37回開催し、延べ624人が参加した。	—
ウインタースポーツ少年団の活性化	ウインタースポーツ競技団体とのマッチング(さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業)	ウインタースポーツ少年団の活性化を図るため、体験練習会の開催や広報を支援	新型コロナの影響により体験会は中止となったが、エコチルにWS10種目の少年団についての情報を載せたり、デジタル環境広場に出展したりすることで広報活動を行った。 また、バーチャルウインタースポーツ塾としてスキージャンプ、フィギュアスケート、アルペンスキーのジュニアアスリートの目線による動画を配信した。	—
カーリング競技の普及	カーリング普及促進事業(さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業)	カーリングに親しむきっかけづくりのほか、競技力向上を目指し継続的に取り組む環境の提供	子ども向け指導プログラム参加者数729名(158回) 競技力向上のため行ったレベル別カーリングスクールには4,266名(957回)の参加があった。	◎
ウインタースポーツインストラクターの派遣	さっぽろっ子ウインタースポーツパワーアップ事業(ウインタースポーツ普及振興事業)	インストラクターの派遣により、学習環境の充実を図るとともに、ウインタースポーツに親しむ習慣を育む	スキー授業及び歩くスキー授業にインストラクターを派遣。 スキー学習支援 派遣68校延べ638人 歩くスキー 山の家改修工事のため、実施せず	○
(2) ウィンタースポーツの経済的負担の軽減				
具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
ウインタースポーツ実施時の利用料金等の助成	さっぽろっ子ウインタースポーツ料金助成(ウインタースポーツ普及振興事業)	ウインタースポーツに生涯にわたって親しめるよう、子どもたちに対してリフト料金・スケート貸靴料金の助成を行い、スキー、スケートに親しむ機会を創出	料金補助券を配付(スケート貸靴料金、スキーリフト料金) 使用者数延べ27,348人。	◎
児童生徒を対象としたリサイクルスキーの提供	さっぽろっ子スキーリサイクル	スキー学習に向けた保護者の負担軽減を目的として、市民からリサイクル可能なスキー用具を回収し有効活用	市民からリサイクル可能なスキー用具を回収して、572セットの用具を必要とする家庭に配付した。	◎
さっぽろアスリートサポート事業	さっぽろアスリートサポート事業	次世代のトップアスリート育成及び札幌市のスポーツ活動の充実と発展に寄与する団体・個人のスポーツ活動を促進(各種大会参加経費への補助など)	大会出場支援人数 計118人	—
(3) ウィンタースポーツ競技大会の情報発信				
具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
ウインタースポーツシーズンにおける大会情報の発信	ウインタースポーツ観戦文化醸成(ウインタースポーツ普及振興事業)	ウインタースポーツ大会の主催者と連携して、観戦環境の充実を図る。また、コンサドーレとの「ウインタースポーツの普及振興に関する連携協定」に基づき、コンサドーレの情報発信力や興行ノウハウをいかした集客・情報発信を推進する。	サマージャンプ大会420人 LINEを利用した大会情報の配信、観戦エリア充実のためパイプ椅子設置、飲食の出展、ホームページによる広報等を実施(コンサドーレとの連携協定に基づく取組は未実施) ※コロナウイルスの影響によりW杯(男女各2日)は中止	—
ウインタースポーツ競技大会の開催支援	ウインタースポーツ観戦文化醸成(ウインタースポーツ普及振興事業)	ウインタースポーツ大会の主催者と連携して、観戦環境の充実を図る。また、コンサドーレとの「ウインタースポーツの普及振興に関する連携協定」に基づき、コンサドーレの情報発信力や興行ノウハウをいかした集客・情報発信を推進する。	サマージャンプ大会420人 LINEを利用した大会情報の配信、観戦エリア充実のためパイプ椅子設置、飲食の出展、ホームページによる広報等を実施(コンサドーレとの連携協定に基づく取組は未実施) ※コロナウイルスの影響によりW杯(男女各2日)は中止	—

方針2 スポーツを通じた健康増進

施策4 スポーツを通じて市民生活の質の向上を図ります

(1) 市民の自主的な健康づくりの推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
地域における健康づくり活動の支援	健康づくりサポーター派遣事業	これから健康づくりを始める、又は活動をさらに活性化したいと考えている自主活動グループや町内会などの団体に対して、健康づくりサポーターを派遣	趣味サークルや町内会等の自主活動グループに対し、健康づくりサポーターを派遣し、健康さつぽろ21の課題等の啓発を実施	○
	清田区健康アップ推進事業	歩くことを主眼とした健康づくりやバランスの良い食習慣の普及を進め、運動、栄養の両面から健康づくりに取り組む市民を増やし、健康寿命の延伸につなげる	・きよっち健康ポイント事業を実施(参加者数180名) ・区役所健康増進フロアで運動指導員による運動教室を実施(毎週土曜日、全21回)	
ビジネスパーソン・女性の健康づくりの推進	働く世代への健康増進アプローチ研究事業【再掲】	健康課題の多い働く世代を対象に、健康行動につながる支援を行い、その結果検証からアプローチ方法を分析し効果的な施策を検討。	企業説明会を実施し、令和2年11月からプレ運用を開始。	○
	健康推進事業	働く世代や女性の健康づくりの取組強化、推進に向けて、市民・企業・関係機関等との協働による啓発等の取組や環境整備を実施。	企業等の持つ手法やネットワークを通じて、幅広い世代への健康に関する普及啓発を実施	
公園などの散策できる場の提供	公園造成事業	みどりの基本計画に基づき、みどりのネットワークの骨格や街中のみどりの創出となる公園・緑地の整備を行います。	〔新規造成及び拡張整備を行った都市公園の面積〕7.3ha	○
	安全・安心な公園再整備事業	誰もが地域の公園を安心して安全に利用できるよう、老朽化した遊具や管理事務所等の改修を行うほか、出入口や園路の段差解消、バリアフリー対応トイレの設置など、施設のバリアフリー化を実施します。	〔バリアフリー化、老朽化施設更新を実施した公園数〕54公園	
	地域に応じた身近な公園整備事業	良好な都市環境や子どもの遊び場を維持・創造するため、人口の増加により身近な公園が一層不足すると予想される既成市街地への新規公園整備を進める。	〔既成市街地に新規整備した公園数〕1公園※南2条みゆき公園の整備を実施	
	地域と創る公園機能再編・再整備事業	老朽化した身近な公園を対象に、ワークショップ等で地元住民と話し合いを行い、意見を反映するなど、地域のニーズに応じた再整備を行い、また、機能特化で施設総量の抑制を取り入れた整備を行います。	〔核となる公園の全面再整備実施公園数〕27公園	

(2) 健康づくりセンターの活用

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
健康度測定の推進	健康づくりセンターにおける健康づくり事業	健康づくりに必要な健康状態を把握するための医学的検査、運動負荷試験、体力測定などの検査を行い、これらに基づく個別の運動プログラムなどを作成。	健康度測定の実施:利用者690人 新型コロナウイルス感染症の拡大による休館等の影響で利用者数は昨年度より大きく減少した。	○
有資格者による運動指導の推進	健康づくりセンターにおける健康づくり事業	市民の自主的な健康づくりを促進するため、健康運動指導士や理学療法士などが運動指導を行うほか、各区保健センターなどが主催する健康づくり事業へ有資格者を派遣し、集団的運動の実践指導を行う。	個別運動指導の実施:延487人 運動指導員派遣:延74人 新型コロナウイルス感染症の拡大による休館やイベントの開催中止等により、利用者数は昨年度より大きく減少した。	○

施策5 冬季における運動習慣を推進します

(1) 気軽に行うことのできるウインタースポーツの普及

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
歩くスキーの普及振興	歩くスキー普及振興事業	市民が手軽にウインタースポーツを楽しめる環境づくりのため、中島公園及び白旗山競技場に歩くスキーコースを設置し無料で開放する	中島公園利用者数4,795人 白旗山競技場は無人開放のため、利用者数のカウントをしていない。	○
大通公園ウインタースポーツフェスティバルの開催支援	さつぽろスノースポーツフェスタの開催支援	ウインタースポーツに生涯にわたって親しめるよう、子どもたちに対してウインタースポーツを始めるきっかけづくりを行う(大通公園にて歩くスキー、スノーボード、スノーシュー、クロカンの体験会を開催)	※2019年度から大通公園ウインタースポーツフェスティバルに代わり、さつぽろスノースポーツフェスタを開催しているが、2020年度は雪まつりの開催見送りに伴い中止	—
カーリング競技の体験機会の提供	どうぎんカーリングスタジアムにおけるスポーツ教室事業等(体育施設運営管理事業)	気軽にカーリングを体験できる機会として、体験教室や団体向けレクリエーションを開催	観光客向け、市内団体(町内会や学校等)向けに体験会を開催し、164団体を受け入れ、約1,600人の参加があった。	○

(2) 冬の暮らしをいかした健康づくりの推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
冬季の健康づくりを兼ねた雪遊びを楽しめる機会の提供	スノーホッケー会場整備	雪上で気軽に楽しめるウインタースポーツとして札幌市が考案したスノーホッケーについて、会場を整備のうえ市長杯争奪スノーホッケー大会を開催	新型コロナウイルス感染症の影響で、市長杯が中止となった。	◎
	冬も楽しむウォーキング推進事業(南区)【再掲】	冬もウォーキングを楽しむ人を増やすため、雪道の安全なウォーキング方法の周知やウォーキングボールの貸与など、ウォーキングを実践している団体へ冬季の参加拡大に向けた支援を実施	・ウォーキング愛好団体と共同で、雪中ウォーキング大会を開催する予定だったが、新型コロナ感染拡大防止のため中止した。 ・ウォーキング愛好団体の定例会や地域で活動するグループのウォーキング活動を、啓発品を配布することにより支援した。 これらの冬期ウォーキング活動への参加者は、延べ1,526人、累計では2,610人となり、2022年の目標値(2,100人)をすでに上回ったため、新たに2022年の目標値を4,000人と設定した。	
冬季における公園(スキー山)の活用促進	冬季における公園利用の推進	快適な冬の暮らしを実現するために、スキーや雪遊びなど冬季の公園活用を推進	歩くスキーコースの設置及び道具の貸し出し(川下公園、農試公園、前田森林公園等)や、スキー山で使用するソリの貸し出し(モエレ沼公園、農試公園等)等を実施	○
雪かき汗かきチャレンジ	雪かきチャレンジ、雪遊びチャレンジ	自宅周辺や公共性の高い場所等を除雪する活動を通して、児童生徒を雪に親しめるとともに、冬季における運動習慣の定着を図る	16,265名の児童生徒が雪に親しみながら体を動かす習慣を身に付けるとともに、公共のために役立つ活動を主体的に行なった。	◎

方針3 様々な形・場でのスポーツ参加を促進

施策6 地域での取組を支援し、地域コミュニティの醸成につなげます

(1) 地域におけるスポーツ活動の支援

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
地域スポーツクラブの活動支援	体育振興会への活動支援	地域におけるスポーツ活動が活発に行われるように、体育振興会のニーズに応じて、講習会講師の紹介や利用可能な助成制度の紹介するなどの協力を行う	講師の派遣依頼はなかった。	—
地域スポーツ指導者の中学校への派遣【再掲】	地域スポーツ指導者派遣事業(ウインタースポーツ普及振興事業)	ウインタースポーツに生涯にわたって親しめるよう、子どもたちに対してウインタースポーツを始めるきっかけづくりと学習環境の充実を図る	中学校体育授業の補助指導者として、15校に延べ335人派遣。	◎
地域住民が主体となるスポーツ振興事業への支援	スポーツ振興事業 例：清田区における地域スポーツ活動支援	各競技団体と共催(一部後援)でスポーツ大会を開催する。また清田区スポーツネットの活動を支援し、区内スポーツ関係情報の発信、スポーツを楽しむ機会の提供、スポーツ関係者の資質向上を図る。	新型コロナウイルス感染症の影響等により、2020年度のスポーツ大会は区旗争奪少年野球大会の実施のみ。スポーツネットと共催して開催している清田区スポーツ講演会やFun×Fan Sports in きやとも中止となった。スポーツを楽しむ機会として、「子ども走り方教室」も前年度に続き計画していたが、同様の理由により中止となった。	○
	地域開放スポーツ施設	土地、建物の所有者が、その土地、建物をスポーツ施設として整備し地域に開放することで、地域のスポーツ活動の機会の充実を図る	市内1カ所のテニスコートを地域の方に開放し、親睦、健康づくりのために活用。	

(2) 区の特徴やスポーツ施設を活用したスポーツの普及促進				
具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
区の特徴をいかしたスポーツ振興事業の実施	未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業	市民が主役のまちづくりを進めるため、身近な地域のまちづくり活動の支援を行う。(まちづくりに資する地域のスポーツ振興活動の支援を含む。)	各区における地域の主体的なまちづくり活動に対して、各区への予算措置による支援を実施した。 住民主体の事業数の割合: 74.6% これにより各区では、まちづくりに資する取組の一環として、地域のスポーツ振興活動への支援も予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、スポーツ関連イベントのほとんどが中止となった。 ※上記実績は、事業全体における数値であり、スポーツ振興に関する事業のみの数値ではない。	—
	未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業における各区のスポーツ振興事業(中央)	●スポーツ大会後援 区内の各種団体が体育振興・区民交流などを図る目的として開催するスポーツ事業を後援することにより、区民にスポーツに対する興味・関心を持ってもらうことを目的とする。 【後援を予定していた大会】 第31回中央区長旗争奪少年野球大会 第20回中央区長杯パークゴルフ大会 第22回札幌中央区中学生バドミントン大会 ●2020アタック・ザ・531M(藻岩山ファミリー登山) 札幌市民に親しまれている藻岩山での登山を通じて、家族や友人との絆を深めるとともに、自然に親しむことにより、豊かな自然を守る意識を育てることを目的とする。 ●第19回中央区インドア雪合戦大会 室内で手軽にできるインドア雪合戦を通じて、子ども達の親睦や交流の輪を広げ、チームみんなで競技することの喜びを感じてもらい、チームワークの大切さを知ってもらうとともに雪合戦という昔からある遊びを新しいスポーツとして広めることを目的とする。 ●ウインタースポーツフェスタin大倉山 冬期間の外遊びの場を提供し、区民の交流と健康の増進を図るとともに、地域資源である大倉山ジャンプ競技場を会場とし、区民のウインタースポーツへの関心を高めることを目的とする。	●スポーツ大会後援 少年野球大会のみ実施 → 名義後援、表彰盾購入 参加チーム数: 13チーム 参加人数: 350人 ※ パークゴルフ、バドミントンは新型コロナウイルスの影響で中止 ●2020アタック・ザ・531M(藻岩山ファミリー登山) ●第19回中央区インドア雪合戦大会 ●ウインタースポーツフェスタin大倉山 3事業ともに、新型コロナウイルスの影響で中止	
	未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業における各区のスポーツ振興事業(北)	市民が主役のまちづくりを進めるため、身近な地域のまちづくり活動の支援を行う。	1 北区内の小学3～6年生を対象とした「北区少年少女スポーツ大会」の実施を予定していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。 2 北区内の小学生を対象とした「北区スノーホッケー大会」の実施を予定していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。	
	未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業における各区のスポーツ振興事業(東)	ひがしく健康・スポーツまつり 各団体が様々な立場・視点から「健康・スポーツ」について考え、区民・企業・行政が一丸となって取り組むイベントを開催する。	新型コロナウイルス感染症のため、スポーツ交流施設(つどむ)での開催は見送った。	
	未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業における各区のスポーツ振興事業(白石)	ニューススポーツふれあい事業 ・ニューススポーツ貸出事業 ・なわとび大会 年齢、性別、障害の有無といった様々なハードルを越えて、誰もが気軽にゲーム感覚で楽しむことができるニューススポーツを通じて、普段スポーツを行っていない高齢者や子どもたち等が、気軽に体を動かすことにより、区民の健康づくりや交流促進を図る。	・ニューススポーツ貸出件数47件、利用者数1,474人 ※新型コロナウイルス感染症の影響でほとんどの地域行事が中止となったため、例年より、貸出件数、利用者数が減少した。 ・なわとび大会はコロナウイルス感染症拡大防止のため中止	

区の特徴をいかしたスポーツ振興事業の実施	未来へつなぐ笑顔のまちづくり活動推進事業における各区のスポーツ振興事業(西)	・第7回体力測定会(西区) 西区体育館を活用して身長・体重・血圧・体脂肪・握力・肺活量・閉眼片足立ち・長座体前屈・立ち幅跳び・全身反応・垂直跳び・上体起こし・反復横跳びの13項目を無料で測定、総合判定を行う。 ・第46回西区民みんなで楽しむマラソン大会 農試公園を会場に、西区スポーツ推進委員会との共催で毎年10月の「スポーツの日」(旧:体育の日)に開催しているマラソン大会。 ・第21回西区民雪合戦大会 小学生(低学年・高学年)の部と一般の部に分け、西区スポーツ推進委員会との共催及び公園緑化協会の協力により農試公園で開催している雪合戦大会。	中止 ※新型コロナウイルスの感染症の防止のため	—
	とよひらスポーツ応援プロジェクト事業(豊平)	札幌ドームを始め多数の国際規模のスポーツ施設に恵まれた「スポーツのまち・豊平区」として、区民がスポーツに親しむための多彩な機会を提供	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から主催イベントは全て中止となったことから、指標に関する数値は計上できない。 なお、実施した事業は以下のとおり。 ・豊平区スポーツ推進委員会との共催事業(少年野球)の開催 ・各種スポーツ大会の支援 ※ 中止となった事業 ・豊平区スポーツ推進委員会との共催事業(壮年野球、ドッジボール、カーリング) ・スポーツクライミング&パラスポーツフェスティバル ・ウエルカム演奏in福住駅(東京2020オリンピックパラリンピック関係) ・とよひらkidsスポーツ体験会(チアダンス、バドミントン) ・とよひらタグラグビー大会 ・スポーツバイキング2020 ・スポーツ能力測定会in豊平区	
	スポーツフェスタin白旗山(清田)	スポーツの日に白旗山競技場において、広く区民に対してスポーツ等に親しむ行事を行う団体の活動に対して、助成金を交付する。	新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。	
	手稲ふるさと創生事業	手稲山の自然に触れて親しんでもらえるよう手稲山ウオーキングや親子スキー教室などのイベントを開催し魅力再発見につなげる	コロナ禍の影響により中止	

施策7 スポーツを支える人材を育成し、活動を促進します

(1) スポーツボランティアの育成と推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
スポーツボランティアの活動及び研修機会の提供	スポーツボランティアの運営・管理(地域スポーツコミッション事業)	スポーツボランティア(スマイル・サポーターズ)の管理運営及び道内連携の推進	・新型コロナウイルス感染症による大会やイベントの中止により派遣実績なし ・小学校スキー学習支援としてボランティア派遣を実施(5校、19回、延べ93人を派遣)	○
	ぼっぴいはっぴいプラン～区民・大学とつくる「きたまち」すこやか事業における健康づくり担い手養成「元気な人養成講座」	自らの健康づくりだけでなく、地域や組織にも健康づくりを定着させることができるよう積極的に健康づくりに取組むことができるような中心的な人材を養成する。	20人が講座を修了した。終了者は、内容を地域の健康づくり活動に活用するとともに、下記の「ぼっぴいウオーキング会」にも参加してもらい、スタッフ活動を通じてスキルを高めていただいた。	

(2) スポーツ推進委員の活動促進

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
スポーツ推進委員の活動促進	スポーツ推進委員の活動促進	札幌市及び各区スポーツ事業への参画・協力をはじめ、各地域、町内会等の住民組織及び地域スポーツ団体と連携し、市民の健康・体力づくりに向けた事業の企画・運営・指導等を実施	2イベント開催 豊平区 地区対抗少年野球大会 南区 ウィンターマラソン2021	—

(3) クリーンでフェアなスポーツの推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
クリーンでフェアなスポーツの推進	競技団体等の連携によるスポーツ・インテグリティの啓発	スポーツ関係者によるコンプライアンス違反、体罰、暴力等の根絶を目指し情報提供等を行う	札幌市スポーツ協会から加盟競技団体に対し、一般スポーツ団体向けガバナンスコード及びセルフチェックシートの説明とコンプライアンスの重要性について情報提供を行った。	◎

施策8 トップスポーツやアスリートと連携を図ります

(1) アスリート等の派遣によるスポーツ機会の提供

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
アスリートの活用	運動部活動アスリート派遣事業【再掲】 (アスリート活用事業) オリンピックズキャラバン事業【再掲】 (アスリート活用事業)	中学校の運動部活動にアスリートを派遣して部員の競技力向上、指導者の指導力向上を推進。 地域で行われるスポーツ体験会等へオリンピック等を派遣して地域のスポーツ活動の振興、地域の活性化を図る	24運動部活動に派遣 派遣回数延べ332回 1イベントにオリンピック等を派遣。イベント参加者延べ100人。	◎
ウインタースポーツインストラクターの派遣【再掲】	さっぽろっ子ウインタースポーツパワーアップ事業 (ウインタースポーツ普及振興事業)	インストラクターの派遣により、学習環境の充実を図るとともに、ウインタースポーツに親しむ習慣を育む	スキー授業及び歩くスキー授業にインストラクターを派遣。 スキー学習支援 派遣68校延べ638人 歩くスキー 山の家改修工事のため実施せず	○
大学のスポーツ資源をいかした連携	大学との連携によるスポーツ振興	大学施設を活用した事業、大学部活動との連携によるスポーツイベントの実施など	連携先との協議を開始。コロナ禍のため具体的な活動は2021年度以降。	—

(2) アスリートの育成支援

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
スポーツ施設を戦略的に活用したアスリートの発掘	さっぽろジュニアアスリート発掘・育成 (さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業)	札幌市スポーツ協会が保有する資源を最大限活用することで、優れた素質を有する子どもたちを早期に見出し、札幌から世界に羽ばたくトップアスリートの育成を図る。	冬季競技の5種目による育成を開始(スノーボード、スキージャンプ、カーリング、フリースタイル、ノルディック複合)。ナショナルチームに4人の育成選手が選出された。 夏季競技の3種目の選定を行った(陸上、テニス、バドミントン)。	◎
さっぽろアスリートサポート事業【再掲】	さっぽろアスリートサポート事業	次世代のトップアスリート育成及び札幌市のスポーツ活動の充実と発展に寄与する団体・個人のスポーツ活動を促進(各種大会参加経費への補助など)	大会出場支援人数 計118人	—
スポーツ団体と企業とのマッチング制度の検討	スポーツ支援企業マッチング事業	事業化に向けた検討中	・2020年時点では事業化に至らなかったが引き続き検討中	▲

(3) プロスポーツチームとの連携によるスポーツ振興

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
プロスポネットSAPPOROによる取組	プロスポネットSAPPORO連携事業	札幌市に本拠地を置く4つのプロスポーツチーム(ファイターズ、コンサドーレ、レバンガ、エスポラーダ)と連携して観戦文化の醸成を図る	年間実施数 6事業 ・区民応援デー ・キッズデー ・他部局連携(教育、消防) ・共通カレンダー作成 ・合同動画制作	○
	デンソー、サフィールヴァ北海道とのバレーボール普及振興事業	デンソーエアリービーズ(V1女子)及びサフィールヴァ北海道(V2男子)を保有するミリーソスポーツとのホームタウンパートナー協定に基づき、バレーボールの普及振興、応援機運の醸成を図る	2020:2事業 本市主催の札幌マラソン提携イベントへの協力、シティPRとしてアリーナにスマイルロゴの掲出	
北海道日本ハムファイターズ屋内練習場の市民開放	ファイターズ屋内練習場市民開放事業(学校施設等開放事業)	ファイターズ屋内練習場を小中学生が使用する際の経費を補助	小、中学生の利用回数110回に対して補助を行った。	○
北海道コンサドーレ札幌との連携によるウインタースポーツの普及振興	北海道コンサドーレ札幌との連携によるウインタースポーツ普及振興	コンサドーレの情報発信力や興行ノウハウをいかし、ウインタースポーツの普及振興やアスリートの育成を目指す	さっぽろっ子ウインタースポーツ料金助成事業への協力(達成者へコンサドーレとコラボしたのクリアファイル、Tシャツの贈呈)	○

自己評価基準	◎：当初の予定通り事業を実施できたもの ○：概ね予定通り事業を実施できたもの ▲：予定通り事業を実施できず今後に向けて検討を要するもの又は、 当該年度時点で事業化に至っていないもの ー：外的要因により未実施のもの又は、規模を大幅に縮小したもの
--------	---

目標2 スポーツの力で「さっぽろ」をかえる

方針4 スポーツを通じた共生社会の実現

施策9 障がい者スポーツを振興します

(1) 障がい者スポーツの普及・振興の促進

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
区体育館における障がいのある方の利用促進	障がい者スポーツ体験会の実施 (障がい者スポーツ普及促進事業)	様々な競技の体験会を実施し、障がい者スポーツの裾野拡大や市民理解の促進を図る。	市民理解の促進に向けた講演会などの新規事業を実施した一方、体験会については新型コロナウイルス感染症の影響により、少人数を対象としたもののみの実施となり、参加人数は1,093人となった。	ー
障がい者スポーツ指導者養成講習会の開催	障がい者スキー普及促進事業 (障がい者スポーツ普及促進事業)	障がいのある方のウインタースポーツの裾野拡大を目的として、バイスキー・シットスキーの指導者養成講習会及び体験会を開催	2018年度よりシットスキー及びバイスキーについて指導者養成講習会を実施しており、2020年度は19人、これまでに延べ65人が受講している。	ー
障がい者スポーツ普及促進協議会の設置	障がい者スポーツ普及促進協議会の設置 (障がい者スポーツ普及促進事業)	学識経験者をはじめ、障がい者団体や競技団体、スポーツ施設運営者など多様な関係者からなる協議会を設置し障がい者スポーツの普及促進を図る	2018年度より、障がい者スポーツの普及促進と関係者の連携強化を目的にスポーツ団体や民間企業出身の委員等から成る「札幌市障がい者スポーツ普及促進協議会」を設置しており、2020年度は3回の会議を開催した。	ー

(2) 障がい者スポーツの拠点づくり

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
障がい者スポーツクラブの拠点づくり	障がい者スポーツ専用の学校開放 (障がい者スポーツ普及促進事業)	障がい者スポーツの活動の場の拡充を目的として、みなみの杜高等支援学校の体育館で障がい者スポーツ専用の学校開放を実施	新型コロナウイルス感染症対策を施した上で開放を実施し、2020年度は65.1%の稼働率となった。	ー
	パラスポーツクラブ SAPPOROの運営 (障がい者スポーツ普及促進事業)	スポーツを継続して楽しめる拠として「障がい者スポーツクラブ」を開設し、肢体不自由のある子どもが初心者であっても気軽にスポーツを楽しめる環境づくりを整備	2019年度より、肢体不自由のある子どもを対象として定期的に様々な競技を指導する「パラスポーツクラブ SAPPORO」を運営しており、2020年度は9～2月の間、活動を行った。	ー

(3) 障がい者スポーツ大会の開催や選手派遣への支援

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
障がい者スポーツ大会の開催や選手派遣への支援	全国障害者スポーツ大会札幌市選手団派遣 (障がい者スポーツ普及促進事業)	全国障害者スポーツ大会に札幌市選手団を派遣	2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大会が中止となったため、派遣を行えなかった。	ー
	札幌市障がい者スポーツ推進事業補助金 (障がい者スポーツ普及促進事業)	障がい者スポーツ大会開催事業や選手団派遣に係る交通費等への助成	新型コロナウイルス感染症の影響により各大会が中止となったことから、選手団派遣に係る助成を行わなかった。 また、はまなす車いすマラソン大会についても中止となったため、開催準備に係る費用の一部を助成した。	ー
	障がい者スポーツ大会開催事業	市内の障がい者(身体・知的・精神)を対象としたスポーツ大会(通称すずらんピック)を開催	新型コロナウイルスの影響により、すずらんピックの開催を中止とした。	ー

(4) スポーツ施設のアクセシビリティ向上

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
スポーツ施設の計画的な保全、改修【再掲】	スポーツ施設リフレッシュ事業	市民が安全・安心・快適にスポーツに親しめる環境を維持していくため、スポーツ施設の計画的な保全、改修、大型備品の更新を行う。	【修繕】 ・スポーツ交流施設人工芝敷設 ・円山陸上競技場スタンドベンチ保全 ・円山球場外構フェンス保全 ・円山球場スタンド防水保全 ・清田区体育館温水プール建築保全 ・スポーツ交流施設建築保全 【備品】 ・平岸プール更衣室ロッカー更新 ・円山陸上競技場エアーレーション更新 ・東区体育館トレーニングマシン更新 ・麻生球場乗用リール式芝刈機更新	◎
障がい者の種別や特性を考慮した誰もが利用しやすいスポーツ施設の運営	各区体育館等において指定管理者が実施	各区体育館等の指定管理者である札幌市スポーツ協会では「障がいのある方への配慮のガイドライン」を策定し誰もが利用しやすい施設運営を行う	障がいのある方への配慮のガイドライン(H28.10策定、H30.5改定)に基づき、誰もが利用しやすい運営を行い、共生社会の実現を目指す。	○
スポーツ施設におけるバリアフリーマップ導入の検討	各区体育館等において指定管理者が実施	各区体育館等の指定管理者である札幌市スポーツ協会において「バリアフリーマップ」の導入を検討	HPのフロアマップにおいて、多目的トイレなどの表示を行っているが、より誰もが見やすいバリアフリーマップの作成へ向けて、他企業や団体などの情報収集を行い、札幌市のスポーツ施設におけるマップのあるべき姿の検討を進めている。	○
スポーツ施設ホームページのアクセシビリティ向上	各区体育館等において指定管理者が実施	各区体育館等の指定管理者である札幌市スポーツ協会では「ウェブアクセシビリティ方針」を策定し誰もが利用しやすいホームページ運営を行う	ウェブアクセシビリティ方針が策定され、ホームページ上に公開されている。ホームページのJIS X 8341-3:2016に基づいた試験が行われており、適合レベルAAに準拠している。	◎

施策10 スポーツを通じた国際交流、異文化理解を推進します

(1) 姉妹都市との国際スポーツ交流の実施

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
国際親善ジュニアスポーツ姉妹都市交流事業	国際親善ジュニアスポーツ姉妹都市交流事業(スポーツ姉妹都市交流事業)	スポーツを通じて相互理解・友好親善を深め、国際感覚豊かな人材を育成するため、各姉妹都市の中学生選手団と札幌の中学生選手団がスポーツを介して交流を行う	理由:新型コロナウイルスの影響により派遣見送り	—
札幌マラソン大会姉妹都市交流事業	札幌マラソン大会姉妹都市交流事業(スポーツ姉妹都市交流事業)	スポーツを通じて相互理解・友好親善を深め、国際感覚豊かな人材を育成するため、5年毎の姉妹都市提携記念年に該当する相手都市から選手団を札幌マラソン大会に招待	新型コロナウイルスの影響により受入見送り	—

(2) スポーツを通じた国際交流の推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
国際交流館におけるスポーツや健康づくりをきっかけとした異文化理解の促進	札幌国際交流館国際交流事業	札幌国際交流館において、市民と外国籍市民等とがスポーツを通じて相互理解及び親善を深められる事業を実施	外国人とスポーツ交流しよう①YOGA、ワールドスポーツフェスティバルの事業を実施してスポーツを通じて市民と外国人の交流を図った。	—
国際交流を目的とした国際スポーツ大会への参加支援	さっぽろアスリートサポート事業(スポーツ振興基金助成金(国際交流の部))	次世代のトップアスリート育成のため、各種大会参加経費等へ補助	大会出場支援人数 計118人(うち、国際大会への支援0人) 2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、大会が中止となり国際大会への支援なし。	—
ラグビーワールドカップ2019TMの開催を契機とした国際交流	ラグビーワールドカップ2019開催事業	外国人おもてなし事業、ファンゾーン運営など	2019年度開催(事業終了)	◎
札幌国際スキーマラソン大会の開催を通じた国際交流	札幌国際スキーマラソン大会選手交歓会における選手間の国際交流	札幌国際スキーマラソン大会の前日に開催する選手交歓会において、国内・海外選手の交流を図り、それぞれの国の文化や習慣などに触れ合う機会を創出する	・2021年2月7日開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症のため中止となった。	—

方針5 スポーツを通じた経済・地域活性化

施策11 札幌の特色をいかしたスポーツツーリズムの推進、交流人口の拡大に努めます

(1) さっぽろグローバルスポーツコミッションによる取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
スポーツツーリズムの推進	スポーツツーリズム振興(地域スポーツコミッション事業)	札幌市、北海道の豊富なスポーツ資源を最大限活用することで、ウインタースポーツを中心とするスポーツツーリズムを推進する。	・海外向けプロモーションについては、新型コロナウイルス感染症によりオンラインに振替え実施した(欧米豪向けオンライン・プロモーション、中国向けオンラインセミナー・商談会)。 ・ナイトクロカンinホワイトイルミネーションを開催し、既存コンテンツを活用した新たなナイトコンテンツによる誘客促進を図った。	○
海外代表合宿の誘致	国際競技大会や事前合宿等の誘致(地域スポーツコミッション事業)	札幌市、北海道の豊富なスポーツ資源を最大限活用することで、国際競技大会や事前合宿の誘致、開催支援を行う。	・「2021ワールドパラノルディックスキー・ジャパンカップ札幌大会」における運営支援 ・東京2020大会パラリンピック事前合宿にかかるカナダのバーチャル視察受入れ	○

(2) 市民スポーツ大会の開催支援

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
市民スポーツ大会の開催支援	市民スポーツ大会の開催支援(スポーツ事業助成事業)	各種スポーツ大会への助成	・札幌市民体育大会: 8,395人 ・札幌マラソン: 大会中止(代替事業実施) ・北海道マラソン: 大会中止 ・札幌国際スキーマラソン: 大会中止(代替事業実施) ・北海道を歩こう: 大会中止	—

施策12 札幌のスポーツ資源をいかしたスポーツの楽しみ方を提供します

(1) 札幌の魅力をかきた観光資源の活性化検討

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
大倉山や札幌オリンピックミュージアムの魅力アップ	大倉山・オリンピックミュージアム魅力アップ事業	大倉山ジャンプ競技場、ミュージアムを活用し、オリパラ教育の推進、オリパラ招致の機運醸成、パラリンピックへの理解促進を図る	大倉山ジャンプ競技場及びミュージアムを活用し、オリパラ招致の機運醸成を図ること等を目的に、北海道オール・オリンピック活動拠点「オリパラ・サロ」を開設した。 また、市内の小中学校等53校にオリパラ教育を行った。	○
札幌ドームの活用促進の検討	札幌ドーム活用促進事業	札幌ドームが持つ多目的市民利用施設としての能力、可能性を最大限発揮させるため、機能拡充を推進しドームの活用促進を図る	・2020年度から事業化したものの、設計業務の遅れにより、工事実施に至っていない。	—
スキーを始めとしたウインタースポーツ体験の機会創出	スノーリゾート推進事業 都心における冬のアクティビティ創出事業 スポーツツーリズム振興(地域スポーツコミッション事業)	都市型スノーリゾートシティとしてのブランド化を目指した計画を策定するとともに、市内スキー場、宿泊施設等の民間事業者による共同事業を支援 札幌市北3条広場にスケートリンクを設置するとともに、ホワイトイルミネーションの活用等により夜観光の魅力も高めることで、札幌ならではの新たな体験型コンテンツを創出 札幌市、北海道の豊富なスポーツ資源を最大限活用することで、ウインタースポーツを中心とするスポーツツーリズムを推進する。	「スノーリゾートシティSAPPORO推進戦略」の策定に向けて、検討委員会の開催や素案作成を実施 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、リンク設置・運営は困難であると判断し開催を断念 ・中島公園でナイトクロカンinホワイトイルミネーションを開催し、既存コンテンツを活用した新たなナイトコンテンツによる誘客促進を図った。	○

(2) プロスポーツチームとの連携によるシティプロモート

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
プロスポーツチームとの連携によるシティプロモート	札幌市に本拠地を置く4つのプロスポーツチームの連携 ホームタウンパートナー協定に基づく、バレーボールの普及振興、応援機運の醸成	札幌市に本拠地を置く4つのプロスポーツチーム(ファイターズ、コンサドーレ、レバンガ、エスパル)と連携してスポーツを通じたまちづくりを推進 デンソーエアービーズ(V1女子)及びサフィールヴァ北海道(V2男子)を保有するミリーソスポーツとのホームタウンパートナー協定に基づき、バレーボールの普及振興、応援機運の醸成を図る	年間実施数 2020年度: 6事業 ・区民応援デー ・キッズデー ・他部局連携(教育、消防) ・共通カレンダー作成 ・合同動画制作 2事業 本市主催の札幌マラソン提携イベントへの協力、シティPRとしてアリーナにスマイルロゴの掲出	○

(3) 官民連携によるスポーツ環境整備手法の研究

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
官民連携によるスポーツ環境整備手法の研究【再掲】	ウインタースポーツ・オブシージン練習施設整備費補助金【再掲】	市民が一年を通じてウインタースポーツに親しめる環境を整備するため、民間事業者による施設整備に対して費用の一部を補助	GRASS: スケボーパーク施設改修	◎

自己評価基準	◎：当初の予定通り事業を実施できたもの ○：概ね予定通り事業を実施できたもの ▲：予定通り事業を実施できず今後に向けて検討を要するもの又は、当該年度時点で事業化に至っていないもの ー：外的要因により未実施のもの又は、規模を大幅に縮小したもの
--------	---

目標3 スポーツの力で「世界」へつながる

方針6 「さっぽろ」の魅力を世界に発信

施策13 国際大会やスポーツイベントを通じて国内外へ札幌の魅力を発信します

(1) ラグビーワールドカップ2019TMの開催

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
ラグビーワールドカップ2019TMの開催	ラグビーワールドカップ2019開催事業	ラグビーワールドカップ2019を開催することにより、トップレベルのスポーツに触れる機会を提供するとともに、国内外へシティプロモートを実施。	・ラグビーワールドカップ2019大会を開催した(事業終了)	◎

(2) 東京2020オリンピック・サッカー競技の開催

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
東京2020オリンピック・サッカー競技の開催	東京2020オリンピック・パラリンピック開催事業	東京2020に合わせて、国内外を問わず首都圏を訪れる多くの観光客に対して、北海道・札幌への来客につなげることを目的に情報発信	東京2020大会が延期となったため、本事業も延期とした。	ー

(3) 国際スポーツ会議の誘致に向けた取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
国際スポーツ会議の誘致に向けた取組 ※国際スポーツイベントも実績に含める	都心部クロスカントリースキー大会実証実験事業	札幌ならではの冬のにぎわいを新たに創出するため、都心部においてクロスカントリースキー競技の国際大会開催を目指し実証実験を行う	新型コロナウイルス感染拡大の影響により2020年度事業については実施せず	ー
	国際スポーツ大会等誘致促進事業	冬季オリパラ招致に向け、ウインタースポーツ競技を中心に国際大会等を誘致するため、競技団体等の主催者に開催経費を補助	・新型コロナウイルス感染症の影響による大会等の延期や中止、開催規模の縮小に伴い事業実績なし	

(4) さっぽろグローバルスポーツコミッションによる取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
スポーツツーリズムの推進 【再掲】	スポーツツーリズム振興 (地域スポーツコミッション事業)	札幌市、北海道の豊富なスポーツ資源を最大限活用することで、ウインタースポーツを中心とするスポーツツーリズムを推進する。	・海外向けプロモーションについては、新型コロナウイルス感染症によりオンラインに振替え実施した(欧米豪向けオンライン・プロモーション、中国向けオンラインセミナー・商談会)。 ・ナイトクロカンinホワイトイルミネーションを開催し、既存コンテンツを活用した新たなナイトコンテンツによる誘客促進を図った。	○
海外代表合宿の誘致 【再掲】	国際競技大会や事前合宿等の誘致 (地域スポーツコミッション事業)	札幌市、北海道の豊富なスポーツ資源を最大限活用することで、国際競技大会や事前合宿の誘致、開催支援を行う。	・「2021ワールドパラノルディックスキージャパンカップ札幌大会」における運営支援 ・東京2020大会パラリンピック事前合宿にかかるカナダのバーチャル視察受入れ	○

方針7 世界が憧れるウインタースポーツの拠点都市へ発展

施策14 オリンピック・パラリンピックムーブメントを推進します

(1) 市民の招致機運の醸成に向けた取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
冬季オリンピック・パラリンピック招致活動	冬季オリンピック・パラリンピック招致事業	冬季オリパラ招致を目指し、次世代に過度な負担を残すことのない、まちづくりと連動した大会の開催概要計画の策定を行うとともに、機運醸成の取組や招致活動を図る。	・機運醸成の取組を継続 ・IOC及び市民との対話内容を踏まえながら開催概要計画の更新に向けた調査・検討を実施	○
冬季オリンピック・パラリンピック招致活動を通じた道内連携の促進	冬季オリンピック・パラリンピック招致事業	冬季オリパラ招致に向け、一時的に集中する施設整備等の財政負担を平準化するため、複数年に渡り資金を積み立て。	・令和2年度から内閣府より「冬季オリンピック・パラリンピック招致による札幌創生推進プロジェクト」として企業版ふるさと納税の活用が認定された	○
1972年札幌オリンピック50周年記念事業の実施検討	1972年札幌オリンピック50周年記念事業	2021年度に記念事業を実施し、2030年冬季オリパラ招致の機運醸成を推進	・2021年度の事業の実施に向けての検討を進めた。 ・オリンピックミュージアムの年間来館者数(2020年): 約102千人	○

(2) オリンピック・パラリンピック教育の推進

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
オリンピック・パラリンピアンを招へいし、講話や体験活動を行う学校教育	オリンピック・パラリンピック教育推進事業	オリンピック・パラリンピック教育研究推進校を指定し、教育課程に位置付けられている教育活動と関連を図ったオリンピック・パラリンピック教育の学習モデルづくりに係る研究を行い、その成果を全市に普及する	全小中学校の87%にあたる257校において、副教材や実践事例集を活用した学習、オリンピックの講演、オリンピックミュージアムでの活動等のオリンピック・パラリンピック教育を実施した。	○
札幌オリンピックミュージアムを活用した学校教育の推進	大倉山・オリンピックミュージアム魅力アップ事業	大倉山ジャンプ競技場、ミュージアムを活用し、オリパラ教育の推進、オリパラ招致の機運醸成、パラリンピックへの理解促進を図る	・札幌オリンピックミュージアムを活用し、市内の小中学校等53校にオリパラ教育を行った。	○
大倉山や札幌オリンピックミュージアムの魅力アップ 【再掲】	大倉山・オリンピックミュージアム魅力アップ事業	大倉山ジャンプ競技場、ミュージアムを活用し、オリパラ教育の推進、オリパラ招致の機運醸成、パラリンピックへの理解促進を図る	大倉山ジャンプ競技場及びミュージアムを活用した、オリパラ招致の機運醸成を図ること等を目的に、北海道オール・オリンピック活動拠点「オリパラ・サロン」を開設した。 また、市内の小中学校等53校にオリパラ教育を行った。	○

施策15 札幌ブランド、シビックプライドを醸成します

(1) スポーツを核としたまちづくりの研究

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
スポーツと集客交流の拠点づくりの検討	札幌ドーム周辺活用推進事業	高次機能交流拠点である札幌ドーム周辺地域について、将来的なあり方に関する具体的な検討等の推進	・札幌ドーム周辺地域の在り方についての検討及び基本構想策定に向けての協議調整	○
将来を見据えたスポーツ施設の再配置、再整備の検討 【再掲】	スポーツ施設配置・活用計画策定事業	今後の人口減少や超高齢社会、多様化するニーズに対応するため、オリパラ等の競技大会への対応や更新費用の平準化等を考慮した計画を策定	「札幌市スポーツ施設配置活用実施方針(案)」をまとめ、パブリックコメントを行った(方針策定は2021年度)。	○

(2) 冬季版ハイパフォーマンセンター（HPC）の誘致に向けた取組

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
冬季版ハイパフォーマンセンター（HPC）の誘致に向けた取組	冬季版ハイパフォーマンセンター誘致事業	冬季オリパラ招致を目指す都市として、ウィンタースポーツの振興や競技力の向上に向けて、総合型ハイパフォーマンセンターを誘致	・要望活動の実施 札幌市重点要望において、総合型HPC誘致を要望 ・勉強会の開催 有識者を迎え、誘致する施設の構想案を検討する勉強会を開催 ・検討会の開催 道内におけるスポーツ医科学サポート体制のあり方について検討する検討会を開催	○

(3) 地元出身アスリートの発掘・育成体制等の研究

具体的な取組	事業名	事業内容	2020年度実施状況	自己評価
スポーツ施設を戦略的に活用したアスリートの発掘 【再掲】	さっぽろジュニアアスリート発掘・育成（さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業）	札幌市スポーツ協会が保有する資源を最大限活用することで、優れた素質を有する子どもたちを早期に見出し、札幌から世界に羽ばたくトップアスリートの育成を図る。	冬季競技の5種目による育成を開始（スノーボード、スキージャンプ、カーリング、フリースタイル、ノルディック複合）。ナショナルチームに4人の育成選手が選出された。 夏季競技の3種目の選定を行った（陸上、テニス、バドミントン）。	◎
アスリートの活用 【再掲】	運動部活動アスリート派遣事業（アスリート活用事業） オリンピックズキャラバン事業（アスリート活用事業）	中学校の運動部活動にアスリートを派遣して部員の競技力向上、指導者の指導力向上を推進。 地域で行われるスポーツ体験会等へオリンピック等を派遣して地域のスポーツ活動の振興、地域の活性化を図る	24運動部活動に派遣 派遣回数延べ332回 1イベントにオリンピック等を派遣。イベント参加者延べ100人。	◎
さっぽろアスリートサポート事業 【再掲】	さっぽろアスリートサポート事業	次世代のトップアスリート育成及び札幌市のスポーツ活動の充実と発展に寄与する団体・個人のスポーツ活動を促進(各種大会参加経費への補助など)	大会出場支援人数 計118人(うち、国際大会への支援0人) 2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、大会が中止となり国際大会への支援なし。	—
スポーツ団体と企業のマッチング制度の検討 【再掲】	スポーツ支援企業マッチング事業	事業化に向けて検討中	・2020年時点では事業化に至らなかったが引き続き検討中	▲

自己評価集計

◎	24	当初の予定通り事業を実施できたもの
○	45	概ね予定通り事業を実施できたもの
▲	2	予定通り事業を実施できず今後に向けて検討を要するもの又は、当該年度時点で事業化に至っていないもの
—	28	外的要因により未実施のもの又は、規模を大幅に縮小したもの